

科目	保健体育科教育法Ⅳ	担当	高須 博	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	必修	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

保健体育科教育法ⅠからⅢで身に付けた基礎の上に立ち「教育実習で授業を自らの力で計画し実施できるように、目標づくり-学習内容の構成-教材教具づくり-教授法(指導と評価の一体化)の一連の過程について理解し、実践できるようにする。全員が模擬授業を行い、より積極的な授業づくりの在り方について学び、自己評価・他者評価の過程を通して改善を加え、よりよい授業過程づくりができるようにする。

【履修注意】

受け身になることなく、積極的に授業に参加すること。
 小グループや全体で討議をする際は全員が必ず発言し、活発に授業に取り組むようにする。
 全出席すること。1/3以上の欠席については単位を認めない。
 本科目は教職課程(保健体育)の必修科目であり、教職課程をめざすもののみ必修である。

【評価方法】

定期試験、授業レポート、学習指導案等、模擬授業実践の内容によって評価する。

【試験について】

定期試験は筆記試験を行う。
 再試験対象者の条件: 不合格者のうち、課題レポートが全て提出され、筆記試験が40点以上の者

【予習・復習】

学修時間は1単位45分が文部科学省指針である。本科目は2単位科目なので、90分の講義に対して90分以上の自宅学習(予習、復習)が必要である。その内容を指示するので、次の講義に提出する。

【教科書】

書籍名: 教師を目指す学生必携「保健体育科教育法」 著者: 杉山・高橋・園山 出版社: 大修館書店

【参考書】

書籍名: 新版体育科教育学入門 著者: 高橋・岡出・友添・岩田 出版社: 大修館書店

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	保健体育科教師の職務	オリエンテーション 教師としての資質、教科指導と生活指導
2	学習指導案の作成法	学習内容 学習活動 指導上の留意点 評価の観点
3	教材づくり1	体づくり運動 陸上運動 水泳 展開と評価の観点
4	教材づくり2	器械運動 球技 武道 展開と評価の観点 指導上の留意点
5	教材づくり3	ダンス 体育理論 展開と評価の観点 指導上の留意点
6	教材づくり4	保健の学習展開と評価の観点 学習活動 指導上の留意点
7	学習指導案の作成1	選択した領域・種目の指導案 指導の要点 教材教具の工夫
8	学習指導案の作成2	選択した領域・種目の指導案 指導の要点 教材教具の工夫
9	学習指導案の作成3	保健の指導案 発問と生徒の反応 板書の工夫 教材教具の工夫
10	学習指導案以外の準備	教材と教具 学習カード 学習者の移動図 発問 指示
11	授業の見方 授業観察の要点	授業観察の方法と観点 反省科の進め方と批評 観察メモ
12	模擬授業(体育1)	授業の実施 観察 相互評価 授業展開の検討会
13	模擬授業(体育2)	授業の実施 観察 相互評価 授業展開の検討会
14	模擬授業(保健)	授業の実施 観察 相互評価 授業展開の検討会
15	模擬授業の講評とまとめ	準備の評価 実施した授業の良い点と改善点 教育実習に向けて
16	期末試験	15コマの復習・確認・総まとめ